

磐城時報

日刊 六廿夕
編輯 磐城時報編輯部
印刷 磐城時報印刷部
發行 磐城時報發行部
社址 磐城石城郡平町
電話 磐城石城郡平町
電話 磐城石城郡平町
電話 磐城石城郡平町
電話 磐城石城郡平町

木村病院の内木氏

醫學博士となる

二十三日付で學位授與 臨床方面の大家

義に藤本博士を出した平町新川性腹膜炎の手術を行ひ何れも全
町木村寅次郎氏經營に係る木村快せしめた經歷を有してゐる。
病院では今回又々外科部長醫學
士内木宗八氏が二十三日付で醫
學博士の學位を授與された。内
木新部長として診療に従事して
るた人で診断に於て優れてゐる
のみならず外科手術に於ては帝
國大學病院に於て教授達がその
手腕を推賞したたけあつて卓越
した腕の所有者である。木村病
院着任後外科醫の最も困難な手
術と見てゐる胃潰瘍の穿孔性腸
膜炎、胃癌、産褥時化膿性汎發

高等水産學校

小名濱に新設計劃

明年度新築と決定した 水産試驗場内に

小名濱町の縣立水産試驗場は腐に寄附申請書を提出することに
朽と狹隘のため改築の必要に迫
られてゐたが、愈々明年度に於
て工費三万圓を投じ海岸へ面し
た地點へ新築することに内定小
名濱町の二万圓を筆頭に關係町
村四倉、江名、豊間等から正式

無電室

等からなり、現在の試驗場に比
較すると三倍余の廣さで、研究
教育、實習等々凡ての點に於て
理想的に完備したもので、加工
品の研究指導方面に新生面を開
くもので完成を期待されてゐる
が、完成すると教室が二つ出來
るのでこれを利用して現在の各種
短期講習會と別個に水産補習學
校卒業生を收容する二年制の
高等水産學校創立の計劃が進め
り二錢の安値であつた。

石城地方最初の 炭礦對抗競泳

明日磐炭プールで舉行 後藤礦山監督局長臨席

常磐地方最初の古河、入山、磐
炭三大炭礦水泳大會は明二十七
日午後零時三十分から内郷村高
坂の磐炭プールで舉行される。
参加選手は延員百五十名の多數
に上り番外競技として各地元小
學校の競技もあり、仙臺礦山監
督局長からは後藤局長及諸井礦政
課長も出席する筈で未曾有の盛
況を豫想されてゐる、尙競技種
目は左の如し

米共同販賣 前回より安値

大浦農業倉庫では二十五日米共
同販賣を行つたが、出荷二百俵
の一俵平均八圓二十錢、前回よ
り二錢の安値であつた。

紛擾の小川江筋 暗闘愈々激化する

管理者長瀬事務官を招き 代議員會を開く

工費二十九萬九千圓の石城郡小前十時より平町團休事務所で組
川江筋農業水利事業は着手個所合議員協議會を開いて對策を講
問題から上下流の組合議員間にするが、縣より長瀬管理者も出
紛糾を來し先に開いた議員有志席するはずで紛争が収まらな
協議會でもまごまごする暗闘は激場合縣は斷固たる態度に出る模
化しこれがため工事は中止となつた。

解散難に陥つた 木炭組合で協議

二十七日理事會

濱三郡木炭同業組合は縣管検査
ことにしたので營業者は何れも
實施に伴ひ解散か存続か態度を
決すべく組合員二千二百余名に
解散同意書を發送したところが
同意者はわずか六百十四名で組
合でも意外に感じられた。二十
七日午後一時から平町事務所
理事會を開催するが協議の如何
により續いて評議員會總會をも
開催するやうになるかも知れな
い。

四倉藪市場 取引開始

四倉藪市場では二十五日から秋
藪取引を開始したが初日取引
は三百三十五貫四百七十匁で最
高四圓十九錢、最低三圓五十九
錢、平均三圓六十九錢（三十五
貫）であつた。

自轉車で 視察旅行

縣農試石城分場研究生石城郡渡
邊村蛭田壽（二三）木田磯（二三）
は二十四日午後一時頃店先まで
眞裸體になつて客引きをしてゐ
るに警官が通りかゝり各々科
料に處せられた。

客引き 眞裸體で

山間の火事で 消防手負傷

石城郡山田村大字山田水野寅雄
氏方から廿五日午前一時頃噴
火し同家及び非住家一棟を全燒
し同二時半頃鎮火した。原因損
害取調中であるが、發火の際
植田町消防組員一名は消火に氣
を取られて自轉車ポンプにはね
飛ばされ腰部に全治二週間の打
撲傷を負つた。

坑木の下敷 支柱夫惨死

平町四丁目飲食店熊谷ナツヨ
抱酌婦押山ウメ（十九）増田チヨ
（十六）阿部タカノ（十六）の三名
は二十四日午後一時頃店先まで
眞裸體になつて客引きをしてゐ
るに警官が通りかゝり各々科
料に處せられた。

客引き 眞裸體で

客引き

客引き

客引き

客引き

客引き

客引き

客引き

客引き

客引き

客引き

客引き

客引き

